



十三小だより

大阪市立十三小学校
学校通信
令和8年 8・9月

「レジリエンス(resilience)」と「共感」

私事ですが、初任校でお世話になった先輩で、定年後、郷里の熊本に帰られた方がいます。お住いの氷川町は今回の熊本地震で震度7と聞き、心配でメッセージを入れていたのですが、無事だという連絡がありほっとしました。ただ、家の倒壊は免れたものの中はぐちゃぐちゃで、停電、断水があり、暑さが酷く夜は車の中で寝たそうで、いつ強い地震がまた起こるかもしれない不安な状況にも関わらず、「11月に大阪に行くから会おう」と、いつもと変わらぬ逞しく元気に話されるのを聞き、「がまだす」という九州地方の方言が思い浮かびました。



熊本の有明海を挟む対岸、長崎県島原半島に「雲仙岳災害記念館」があります。これは、1990～96年、島原地方を襲った雲仙普賢岳噴火に伴う甚大な災害の教訓を後世に残すために造られたものですが、その愛称は「がまだすドーム」と言い、近くには「がまだすロード」という道もあります。

「がまだす」は、熊本北部や島原地方などの方言で、「がんばる」という意味だそうです。噴火により多くの被害を受けた島原地方に住む人々は、全国からの支援を受けつつ、共に手を携え、前を向いて復興の道のりを歩んでこられました。「がまだすドーム」という愛称には、「レジリエンス」（どんな苦境にあっても立ち上がる力）と「共感」（人と人がつながりあう力）が結集した復興のシンボルにという思いがこめられているのだと思います。

十三小100年の歴史においても、戦争や台風災害など、いくつもの苦境にぶつかりましたが、その時々の方々の「レジリエンス」と「共感」によって乗り越え、現在の姿があるといえます。未来の担い手である子どもたちにも、「レジリエンス」と「共感」を培えるようにしていきたいと思います。

学校長 石崎 厚史

十三小学校 100年の歩み ④

戦後、十三小学校と改称され、復興の歩みが始まりました。減少していた児童数も再び急増し、用地買収と校舎建築など、教育環境整備が喫緊の課題となりましたが、学校だけでは解決することは難しく、地域・PTAと学校が一体となって校舎建設委員会を結成し、市との交渉にあたるなど取り組んできました。50周年誌には、「10万円ずつPTAで積立金をこしらえ、水道局の古い砂をもらうことにして、トラック賃を学校でもち、（湿地を）埋め立てた」という記述や、「給食室は廃材を集めて近隣の大工さんが建てて、うどん屋のご主人が窯をつくってくれた」という記述もありました。こうして、地域・PTAの方々の十三を愛する気持ちが結集し、いくつもの苦境を乗り越えてきた結果、50周年を迎える昭和51年には、今とほぼ同じ校舎配置となりました。

8月・9月の行事予定



8月	25	火	2学期 始業式
	26	水	1年2年 発育測定 給食開始
	27	木	3年4年 発育測定 2年 図書館見学 1,2時間目
	28	金	音楽鑑賞会『フレッシュ コンサート』3時間目
	31	月	5年6年 発育測定
9月	1	火	1年2年 視力検査
	2	水	避難訓練（不審者）2時間目 地区子ども会 5時間目 ※午後2時30分頃から集団下校をします。
	3	木	代表委員会・委員会 6時間目
	4	金	1年2年 眼科検診 午後1時30分から スクールカウンセラー来校日
	9	水	よもよも（放課後図書室開放）
	16	水	全学年 中間通知表配布
	17	木	クラブ
	18	金	6年 十三中学校 授業&部活動体験 午後1時から スクールカウンセラー来校日
	25	金	学習参観&作品展 [参観] 全学年 5時間目（午後1時45分～午後2時30分） ※児童は午後2時40分頃に下校します。 ・学習参観と作品展の詳細については、後日お手紙を配布します。
	28	月	作品展（午前9時～午後3時）
	29	火	作品展（午前9時～午後3時） 2年 町たんけん 2,3時間目

※26日(水)～31日(月)は
午前授業です。給食を食べて
午後1時30分頃に下校します。



お知らせ 『ミマモルメ』のメール登録のお願い

夏季休業中にも地震や集中豪雨といった災害がありました。非常災害時には「一斉メール配信サービス」を活用しますので、必ず登録いただきますようご協力をお願いいたします。



〔登録〕 <https://hanshin-anshin.jp/entry/entry/>